

## 小学校部会 指導助言の記録

記録者 都城市立菓子野小学校 川原 竜馬

指導助言者	内 容
南九州大学 人間発達学部 宮内 孝 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最初の授業の中で、1人の児童が、試してごらんと言うと女の子が「無理」といった。その子は、ボールを投げて歩いてキャッチした。次にボールを投げて馬跳びをしてキャッチしようとし始めた。調整しながら、その中で考えながらキャッチできるようになってきた。ステップを踏んで工夫してできるようになった。この授業の目指すべき姿だったのではないか。</li> <li>○ 体を動かすことが苦手だという子がいた。どの子かわからないくらい全ての子どもたちが意欲的に活動していた。その子はこの授業を通して、やってみようかな、できるようになって自信になっていった。先生の指導の賜物だった。</li> <li>○ このような子たちが増えることが大切。</li> <li>○ 体づくりはゴールイメージが作れない。どう高めていけばいいのかが明確でない。この動きをどのように高めていけばよいか分からない。条件変化を与えることで、難しくなる場合とそうでない場合もある。条件変化を考えていく必要がある。</li> <li>○ 動きの組み合わせが違うことで課題が違ってくる。～をしながら～をするというのは、自然にできることと組み合わせれば簡単にできる。難しくする視点を与える必要がある。</li> <li>○ 次の動きの準備をしながら～をするという視点で、条件を与えていく。</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びの、主体的は課題解決的学習であり、対話的は課題解決学習を円滑にしていくことである。円滑にしていった結果できる、できるだけではなく、分かる必要がある。分かってできる、できて分かることが深い学びになっていく。</li> <li>○ 今日の授業を準備してくださったお二人の先生に感謝申し上げます。</li> <li>○ 誰でもできる授業になっていくといい。</li> </ul>

指導助言者	内 容
宮崎県教育庁 スポーツ振興課 三津 順一 指導主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生方が行ったグループ協議こそ学び合い活動。話し合いの視点があつて、その視点をブレずに、インプットしアウトプットして深めていく。これが授業でも必要。</li> <li>○ 川崎先生の授業では、フットワークが軽く、先生の持ち味が出ていた。児童に寄り添う姿が見られた。巧みな動きという言葉を一貫して使っていく中で、巧みな動きを子どもの中に作っていったのではないかと。</li> <li>○ 今この学年で、この単元で、この時間ではどのような計画性をもって何を教え、何を評価していくのか。カリキュラムマネジメントが必要である。</li> <li>○ 運動事例集が県から出され、これをどのように使っていくのかを考えてほしい。実態を理解し、分析しそれぞれの段階でどのように使っていくかを考える必要がある。</li> <li>○ 川崎先生の授業では、グループ活動に入っていく中で、グループ活動を活発にするための声掛けや仕掛けを考える必要があった。なぜその条件を選ぶのかという、きっかけを生む先生の助言が必要。</li> <li>○ 平塚先生の授業では、学級経営が見える授業であった。リズムがある授業であった。リズムがありながら、運動量がある授業であった。</li> <li>○ 条件を変化させることで、子どもたちの中での気づきが生まれる。</li> <li>○ 丁寧に説明するがあまり、運動量が減るが、ねらいがあつて、授業を止めて進めていたので、素晴らしい展開で学習を進められていた。</li> <li>○ やさしく、楽しく、誰でもできる体育科学習は続けてほしい。考える体育科学習を目指して行ってほしい。</li> </ul>